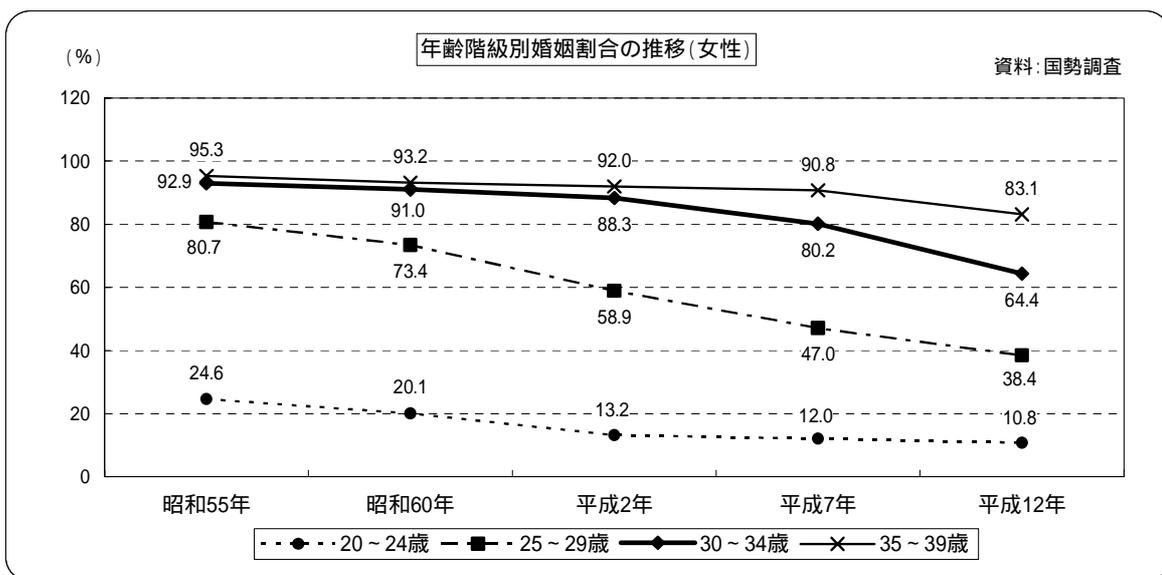
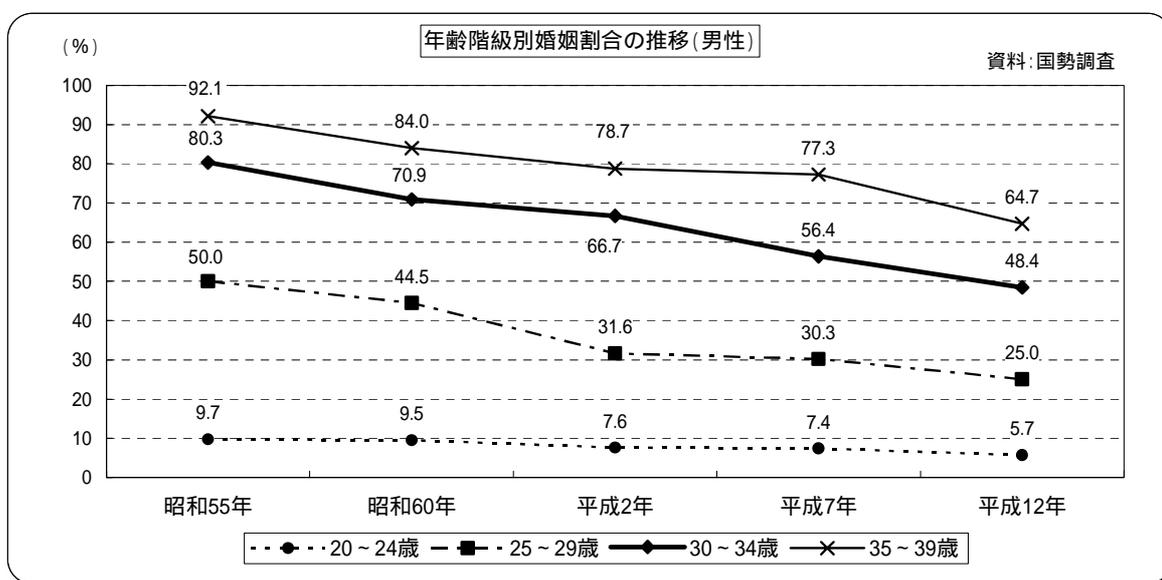


第2節 少子化の要因と背景

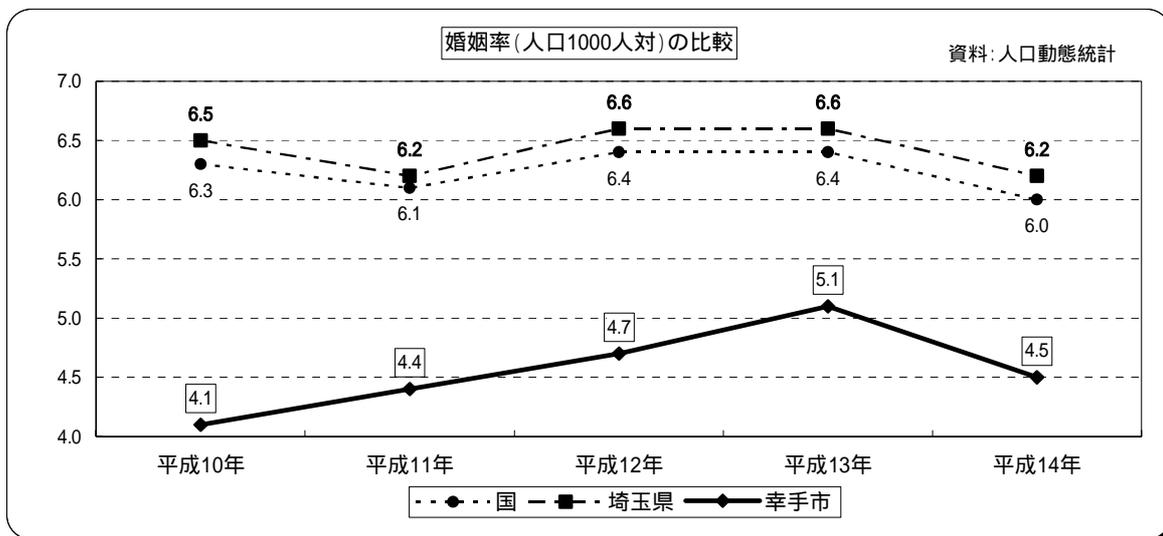
1. 年齢階級別婚姻割合の推移（男性・女性）

昭和55年から平成12年までの年齢階級別婚姻割合の推移をみると、男女とも婚姻割合が下がる傾向にあり、女性よりも男性の方がその傾向が強いことがわかります。平成12年の35歳～39歳までの婚姻割合をみると、男性の婚姻割合は64.7%であり、ほぼ10人に4人近くは結婚していません。また、女性は同じ年齢階級で83.1%となっており、ほぼ10人に2人は結婚していないことがわかります。



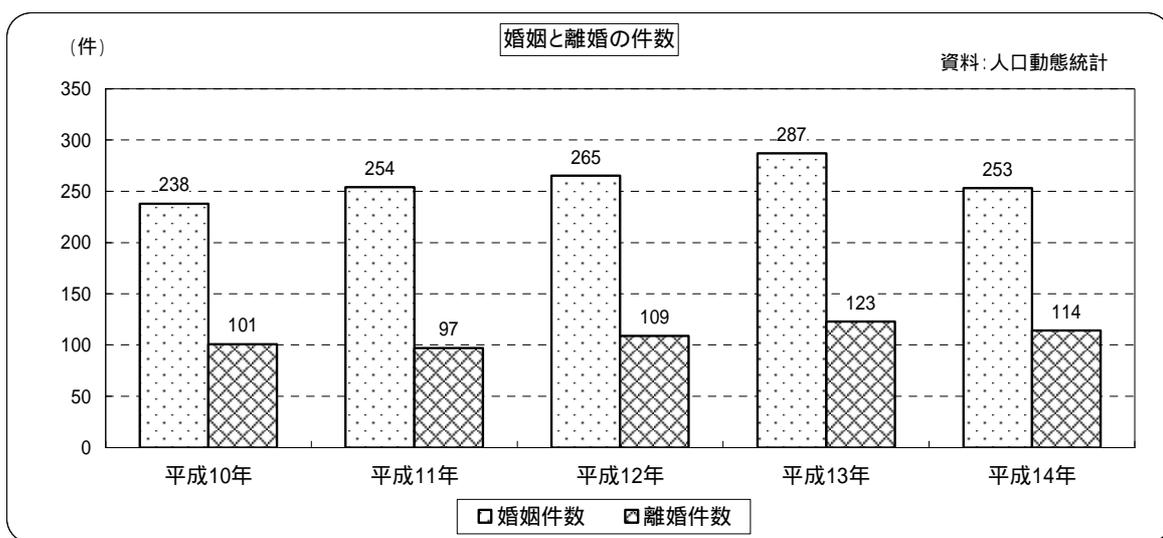
2. 婚姻率（人口 1000 人対）の比較

平成 10 年から平成 14 年までの国と埼玉県と当市の婚姻率（人口 1000 人対）を比較すると、当市の婚姻率は国・埼玉県と比べて著しく低いことがうかがえます。平成 14 年の当市の婚姻率は 4.5 で、国や埼玉県と比べ、それぞれ 1.5 ポイント、1.7 ポイント低い値となっています。



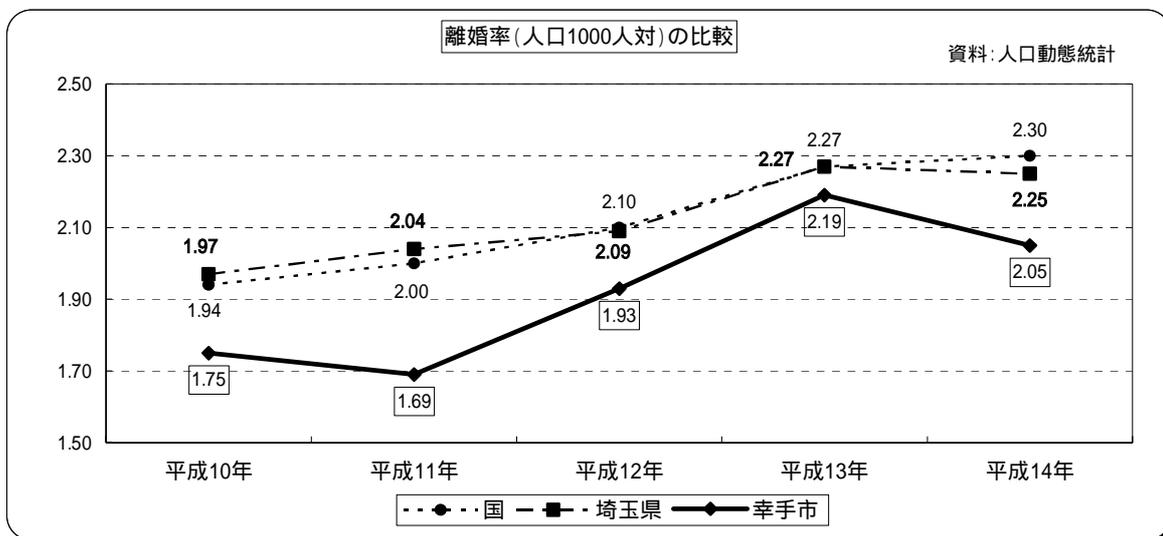
3. 婚姻と離婚の件数

平成 10 年から平成 14 年までの婚姻件数と離婚件数の推移をみると、平成 13 年をピークに平成 14 年には婚姻件数と離婚件数は若干減少しました。



4. 離婚率（人口1000人対）の比較

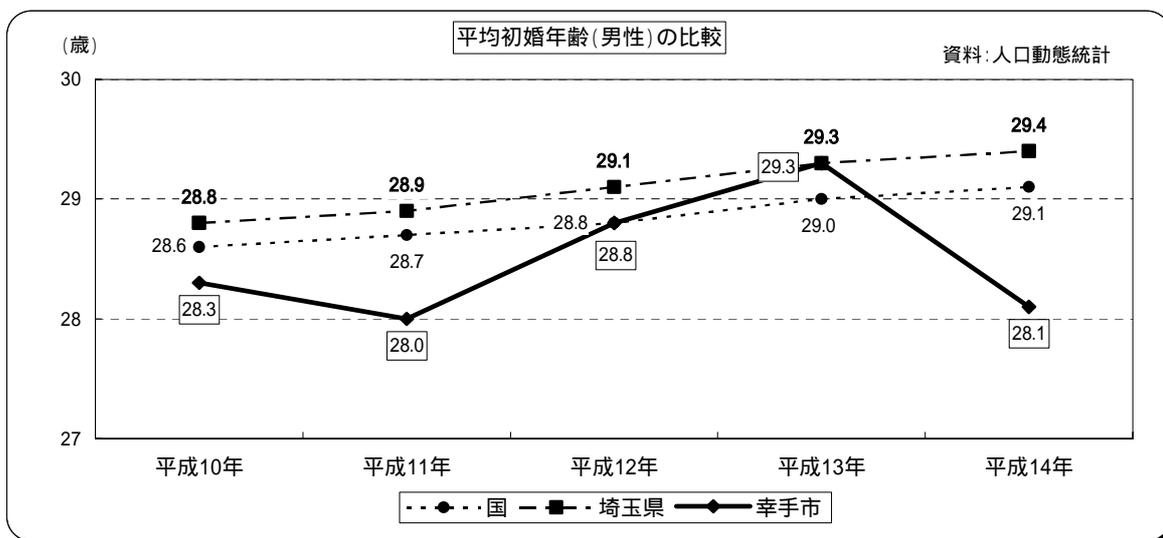
平成10年から平成14年までの推移をみると、当市の離婚率は国や埼玉県と比べて低くなっており、埼玉県内において、比較的離婚件数が少ない市町村と言えます。



5 . 平均初婚年齢の推移（男性・女性）

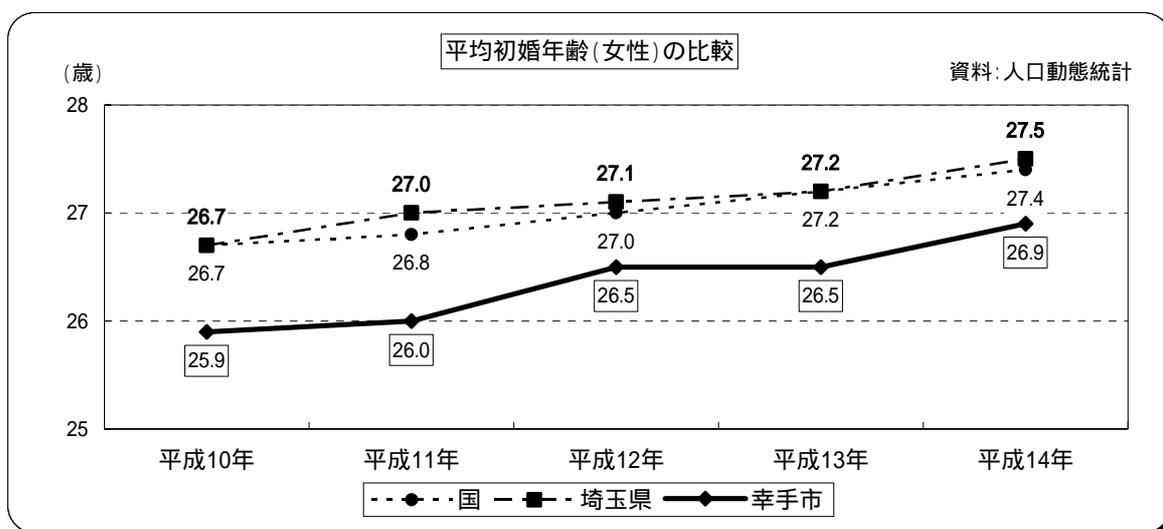
男性

平成 10 年から平成 14 年までの推移をみると、当市の男性の平均初婚年齢は平均して 28.5 歳となっています。また、当市の平均初婚年齢は国や埼玉県より年齢が低くなっています。



女性

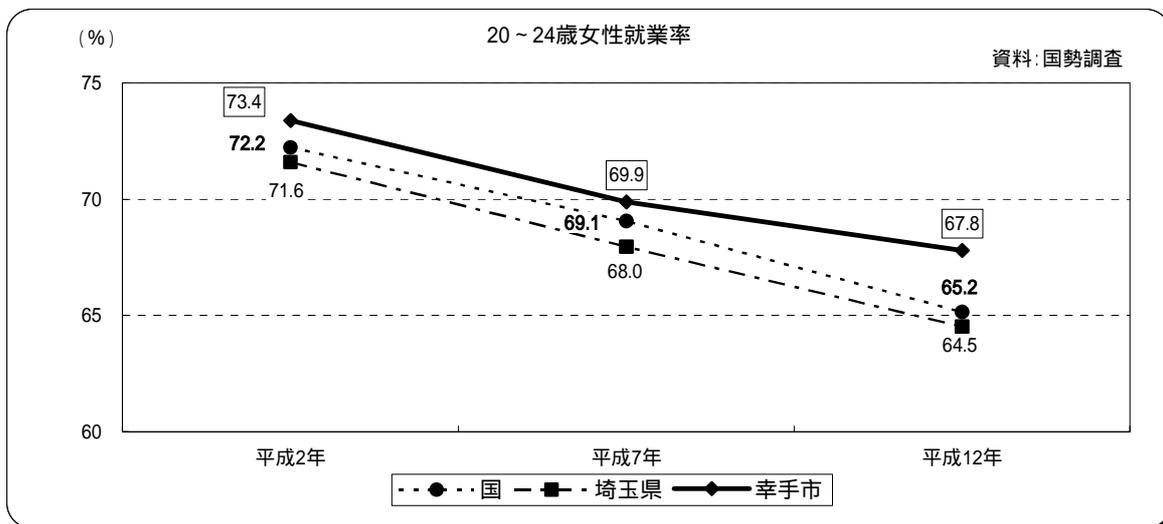
女性の場合、平均初婚年齢は平均して 26.4 歳となっています。男性と同様、国や埼玉県よりも初婚年齢が低くなっており、当市は埼玉県内において比較的初婚年齢が低い市町村であることがわかります。しかし、いずれも初婚年齢は上昇を続けており、今後、女性の初婚年齢は上がり続けるものと予測されます。



6 . 年齢階級別就業率（女性）

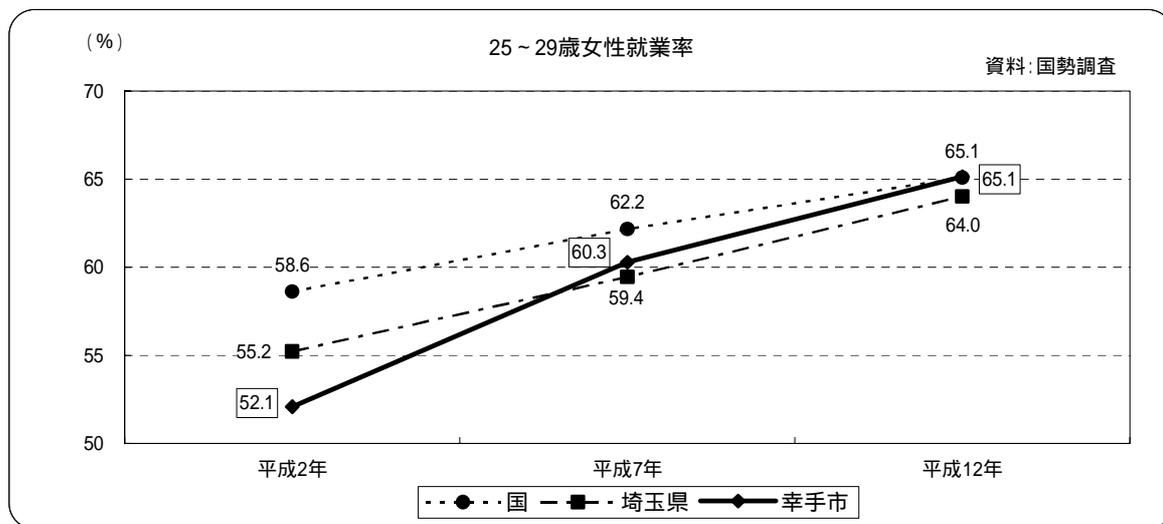
20～24歳の女性の就業率

平成2年から平成12年までの推移をみると、国、埼玉県、当市ともに女性の就業率は低下傾向にあります。これは女性の高学歴化などが影響しているものと思われます。



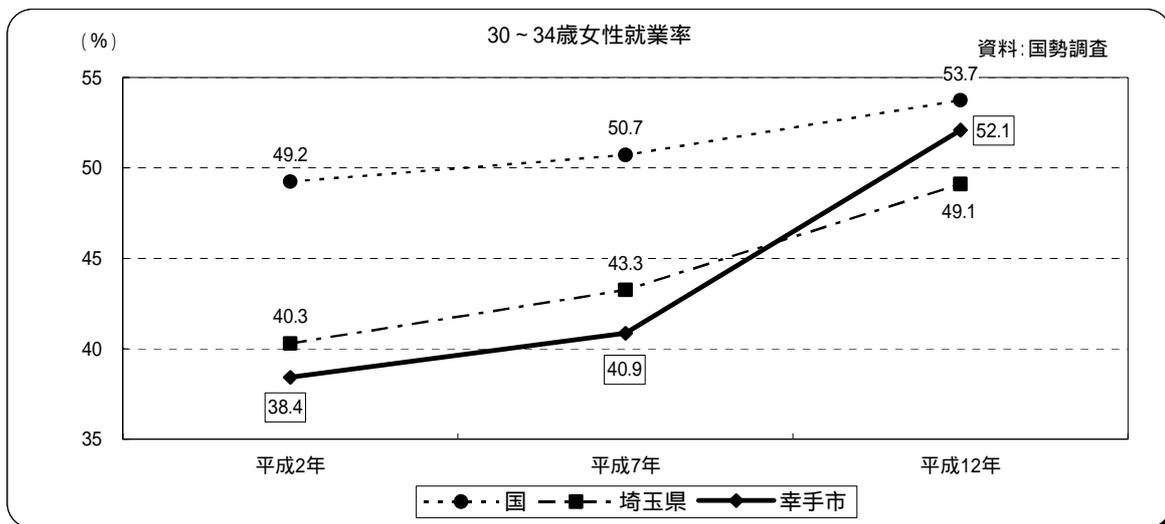
25～29歳の女性の就業率

20～24歳は低下傾向となっていますが、25～29歳では、国、埼玉県、当市ともに女性の就業率は上昇傾向にあります。25～29歳は女性の平均初婚年齢と重なる年代であり、近年、女性の平均初婚年齢が高くなりつつあること、また、女性が結婚しても働き続ける家庭が多くなってきたことが影響しているものと推察されます。



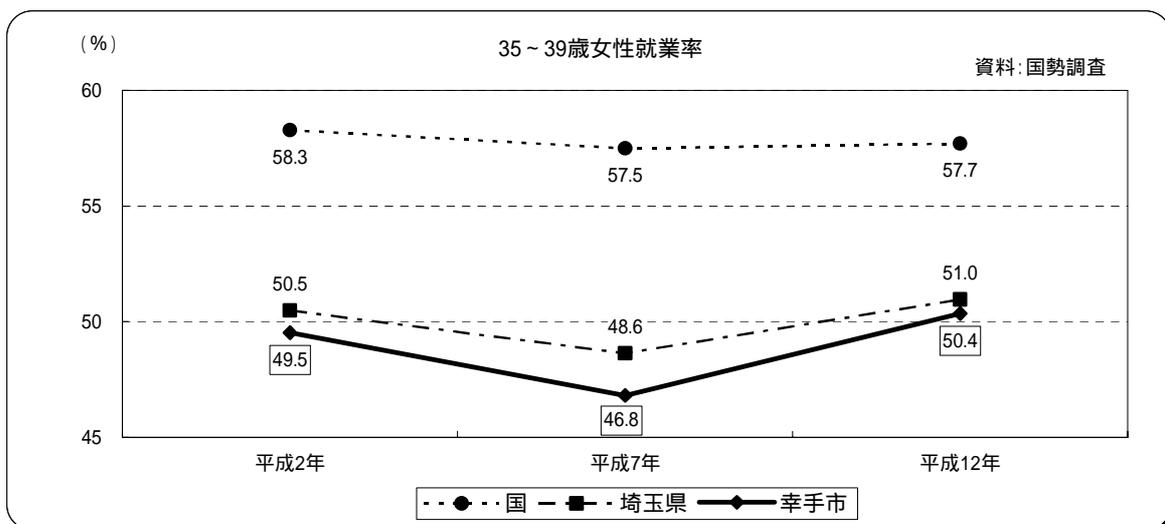
30～34歳の女性の就業率

この年代も女性の就業率は上昇傾向にあります。当市の場合、平成7年にはこの年代の女性の就業率は40.9%となっていますが、平成12年には52.1%と5年間で11.2ポイントも上がりました。近年の長引く不況等により、仕事を持つ母親が増えつつあることも原因の一端と推察されます。



35～39歳の女性の就業率

この年代の女性の就業率は、国、埼玉県、当市ともに横ばいですが、埼玉県や当市は国と比べて低い就業率となっています。埼玉県や当市は全国的に見て専業主婦の割合が比較的高いと推察されます。なお、平成12年の当市の就業率は50.4%であり、2人に1人は就業していることがわかります。



40～44歳の女性の就業率

この年代の女性の就業率も、国、埼玉県、当市ともに横ばいで推移しています。また、全国的に見て埼玉県や当市の就業率は多少低い水準にあります。平成12年のこの年代の当市の就業率は58.0%であり、6割弱が就業していることになります。

